

〔古史徴一〕夏元生とは諸氏々の生たる元をいふ、○中天神とは、天に生坐る神等をいひ、地祇と

は、地に生坐る神等をいふ、其御冑を神別といふ由なり、神より別たれば云るなりさて此神別に、また天神

天孫地祇の別を立られたり、天神は天之御中主神、高皇産靈神、神皇産靈神、津速魂命を始め、其

餘の天神たちの御裔をいひ、天孫は天照大御神より鵜草葺不合命までの御子孫をいひ、地祇

は國に成坐る神たち海神の御末までを云なり、但し遇々には此例を誤られたる事もあり、其は天押穗根命の御裔の弓削氏を左京神別下

に地祇に修れ、天道根命の裔たる滋野大村大家など右京神別下に天孫に修れ、同命の裔伊蘇志臣を大和國神別に天孫に修れ、振魂命の裔たる掃部連を何所も天神に修られたる類も

多かり、實は天押穗根命の御裔は天孫に入り、道根命の裔は天神に入り、振魂命は和多都美天神の子なれば、其裔は地祇に入るべき物なるなや、なほ此類多ければ、心を著て辨ふべし、天

皇皇子之派、謂之皇別は、神武天皇より以下、凡て皇子たちの御派を皇別と謂ふ由なり、皇より別れたる意なり、釋紀に、私記曰、案王子枝別記云、文武天皇、少名阿瓊皇子、天武天皇太子、草壁皇子、尊之子也云々、引り、古くは、武大漢三韓之族、謂之諸蕃

は、大漢の大は尊め稱るに非ず、唯三韓に對へて、文字の列を合さむとてなり、○註蕃は美夜津

古具邇と訓て、皇朝の御奴と爲給へる語なり、○註さて其蕃國の人ごもの族をば諸蕃と謂て、

神別皇別諸蕃、これを三體と爲たる由なり、弘仁私記序には、此を四種として、神胤皇裔、指掌灼

部宿禰等爲神胤也、息長真人三國真人等爲皇裔也、東漢西漢史、及百濟氏等爲蕃化、高麗及東部後部氏等爲古風也、といへり、

〔古史徴一〕夏氏は姓氏錄に、皇別神別諸蕃と別たる如く、元來は氏の貴賤を分別あるを朝廷にし

て撰び給ひ、さて其人の品に叶へて、時々職々に定おきて、八十伴男を治めしめ給ひ、或は殊更

に由縁ありて功しかりし限は、生子の八十連屬に其職を知らせ給ふ、神ながらなる御政の式な

る、然るを後の御々世々に、氏の貴賤の差別なき、賤しき漢國人の賢だてるを貴べる俗の此方に

も漸々に移ろひて、上古の正き御政の御式は沿革たるが如くなれど、然すがに其趣は廢果すて

遺り行はるゝは、天の下に類なかるべし、抑この人品に貴賤の差別ありて、下の下までも其差別

の在がまに、天の下に上なく、貴き天皇の御心のまに、各々等が爲には、善くも悪くも伏